

[0018]九州大学生体防御医学研究所年報 : 2003年

<https://doi.org/10.15017/6248>

出版情報 : 九州大学生体防御医学研究所年報. 18, 2004-08. 九州大学生体防御医学研究所
バージョン :
権利関係 :



診療放射線室

Radiology

医師 2 名、放射線技師 4 名で、画像診断全般、IVR、放射線治療を担当している。

研究では、放射線防護剤の新たな投与法の開発に関する研究を行っている。

人事異動については以下の通りである。

2003 年 12 月に畠中講師が九州大学病院放射線科の講師として転出した。

2004 年 1 月に福谷龍郎が国立大分病院から講師として着任した。

2003 年 7 月に肥塚技官が河野脳神経外科病院に転出した。

2003 年 8 月に堀田佳代が技官として着任した。

A. 肝臓癌に対するリザーバーを用いた肝動注化学療法に関する研究

肝臓癌(転移性肝癌、原発性肝癌)に対する治療の 1 つにリザーバーを用いた肝動注化学療法がある。これは、大腿部皮下に埋め込んだリザーバーという器具より、肝動脈に留置したカテーテルを介して、直接肝臓の動脈に抗癌剤を投与する治療法である。本法は確立された手技ではあるが、カテーテルの閉塞などの合併症が少数ながら起こりうる。これらの合併症に対する対策を検討している。

B. 放射線防護剤の新たな投与法の開発

放射線防護剤に関する研究は現在まで多数行われてきたが、従来の全身投与方法では安全域が狭く臨床応用は困難であった。我々は実験動物を用いて、IVR 手技を応用したより安全な局所投与方法の開発を行っている。

業績目録

原著論文

1. Okafuji T, Yabuuchi H, Nagatoshi Y, Hattanda Y, Fukuya T. 2003.
CT and MR findings of brain aspergillosis.
Comput Med Imaging Graph. 27:489-492.
2. Yabuuchi H, Fukuya T, Tajima T, Hachitanda Y, Tomita K, Koga M. 2003.
Salivary gland tumors: diagnostic value of gadolinium-enhanced dynamic MR imaging with histopathologic correlation.
Radiology. 226:345-54.
3. Hatakenaka M, Yoshimitsu K, Adachi T, Matsuda T, Wake N, Honda H. 2004.
Transient uterine myometrial contraction associated with moles.
J Magn Reson Imaging. 19:182-187.
4. Adachi T, Oda Y, Sakamoto A, Terashi T, Tamiya S, Hachitanda Y, Tsuneyoshi M. 2003.
Prognostic factors in the so-called malignant mesenchymoma: a clinicopathological and immunohistochemical analysis.
Oncol Rep. 10:803-811.
5. Adachi T, Oda Y, Sakamoto A, Saito T, Tamiya S, Hachitanda Y, Masuda S, Tsuneyoshi M. 2003.

Mixed tumor of deep soft tissue.

Pathol Int. 53:35-39.

所員名簿

講師 福谷 龍郎

助手 足立 利貞

技官 進藤 順二

技官 都地 辰昭

技官 岩佐 桂

技官 堀田 佳代